

東京大学日本史学研究室架蔵拓本目録（続）

解説 佐藤 信

東京大学日本史学研究室が架蔵している金石文その他の拓本については、すでに本誌『東京大学日本史学研究室紀要』の創刊号に「東京大学日本史学研究室架蔵拓本目録」を報告した際に、その全体像を解説した（本誌第二号にも「東京大学日本史学研究室架蔵拓本目録索引」を報告したので、参照いただきたい）。そこで述べたように、研究室架蔵拓本は、黒板勝美氏が中心となって明治末年から昭和初年にかけて採拓・収集したものであり、大正年間前後の原拓であること、近代的日本史学形成期における金石文・歴史資料認識を物語る資料であることといった点に特徴と重要性が指摘できるであろう。

ところで、架蔵拓本の全体は、①すでに軸装されて研究室図書ラベルが貼付されている拓本群、②未装幀・未整理のまま木箱に詰められている拓本群、③大型冊子に貼って綴じられた拓本群（鏡・瓦など）の三種から成っている。創刊号の目録で対象としたのは、このうち中心となる①であった。今回は、その後の調査・整理の成果として、②の木箱に保存されてきた拓本群の目録を報告するものである。

木箱は、短辺三〇糎・長辺四二糎・高さ二二糎の大きさで、金属製の錠と把手が付いたものであり、その中に巻かれたり折り畳まれたりした状態で拓本群がぎっしりと収められていた。数通を一括する包紙に鉛筆書きで「ワカラヌモノ」と記されていたり、同じく紙背に「ツマラヌ」と記すものがあることから、拓本群の中から掛幅装に装幀するものを選んだ際に、性格未詳などの理由から除外されて集められたのではないかと思われる。その点では、雑多な未詳資料群といえるが、中には今日の研究にとって重要な資料と思われるものもふくまれ、日本史学研究室架蔵拓本の全体を知る上でも、見逃すことのできない歴史資料である。

今回の調査では、拓本群の現状記録に配慮しつつ整理を行い、新しく番号を付してラベルを貼り、調書を作成した。かつて先学によって「ワカラヌ」とされたように、今日でもその所在や性格がなお明確でないものも多いが（私どもの能力にも応じている）、この報告を機に大方のご教示を得ることができれば幸いである。

架蔵拓本目録

【二〇一】 〔外題〕〔伊豆加茂郡吉佐美八幡頼政勸請罽口〕

一〇四―一 〔頁数〕 一通

〔時代〕 院政期カ

〔拓本の法量〕 縦 二五・五糎／横 二一・一糎

〔銘文の性格〕 罽口

〔書出〕 (神獸〔龍〕文様)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕

〔備考〕

【二〇二】 〔外題〕〔博多町割間杖〕 一〇四―二 〔頁数〕 一通二枚

〔時代〕 桃山時代(天正十五年 一五八七)

〔拓本の法量〕 A 縦 四九・〇／四九・五糎／横 一〇・二／二二・〇糎

糎

B 縦 四八・八糎／二二・七／二三・七糎

〔銘文の性格〕 間杖銘

〔書出〕 A 〔天正十五年丁亥林鐘中旬四月壬申除 博多津〕

〔書止〕 B 〔多津町割吉辰 宗湛〕

〔奥書〕 なし

〔年紀〕 天正十五年六月十四日

〔所蔵〕 豊国神社(福岡市奈良屋町 現福岡市櫛田神社)

〔備考〕 豊臣秀吉による博多再興時の町割使用

【二〇三】 〔外題〕〔某拓本〕 一〇四―三 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 四一・二糎／横 五・五糎

〔銘文の性格〕 (供養銘カ)

〔書出〕 特為□等天長以願先考□生浄土弟子無諸□終生浄土法界□□

共惱無生□

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕

〔備考〕

【二〇四】 〔外題〕〔某拓本〕 一〇四―四 〔頁数〕 二通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 A 縦 二九・六糎／横 三六・八糎

B 縦 一五・七糎／横 三五・二糎

〔銘文の性格〕 (文様)

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕

〔備考〕

【二〇五】 〔外題〕〔博多櫛田神社蔵金銀貨幣拓本〕 一〇四―五 〔頁数〕 一通

〔時代〕 江戸時代(C享保二年〔一七一七])

〔拓本の法量〕 縦 三六・四糎／横 二四・八糎

〔銘文の性格〕 貨幣銘

〔書出〕 A [博多 政所] B [吉備門] C [祿二中山与左衛門]

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 C 享保二年(一七一七)

〔所藏〕 榊田神社(福岡市)

〔備考〕 (右下)「博多/榊田神社藏」

〔二〇六〕〔外題〕〔劉洛眞兄弟造像記〕 一〇四一六 〔頁數〕 一通

〔時代〕 北魏時代(延昌元年 五一二)

〔拓本の法量〕 縦 一五・四糎/横 四一・二糎

〔銘文の性格〕 造像銘

〔書出〕 延昌元年歲次壬辰十一月丁亥朔四日清信「士弟子劉洛眞兄弟」

弟「為亡父母敬造弥勒」像二區使亡父母託生「紫微安樂之処」

願「七世父母師僧眷属」見在居門老者延年「少者孟算便法解」

相生「一時誠佛所」期如是

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 延昌元年(五一二)十一月四日

〔所藏〕 龍門石窟大佛洞(中国河南省洛陽)

〔備考〕

〔二〇七〕〔外題〕〔榊田神社藏劍〕 一〇四一七 〔頁數〕 一枚

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 三六・〇糎/横 四九・〇糎

〔銘文の性格〕 劍文様

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所藏〕 福岡市 榊田神社

〔備考〕 (右下)「榊田神社藏」

〔二〇八〕〔外題〕〔榊田神社藏鑿口拓本〕 一〇四一八 〔頁數〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二七・七糎/横 三九・六糎

〔銘文の性格〕 鑿口文様

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所藏〕 (右下)「右ワニ口一口榊田(俗島森といふ)稻荷社に存する所

也」

〔二〇九〕〔外題〕〔総見寺国宝鑿並びに安土村字西法寺出土貨幣拓本〕

一〇四一九 〔頁數〕 一通

〔時代〕

〔拓本の法量〕 縦 二七・二糎/横 三七・四糎

〔銘文の性格〕 鑿文様・貨幣銘

〔書出〕 (鑿文様「永樂通宝文」)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所藏〕 滋賀県安土町

〔備考〕 「総見寺国宝」「安土村字西法寺出土」

【二一〇】〔外題〕〔日光輪王寺藏法華經版本〕

一〇四—一〇 〔頁數〕 一通

〔時代〕 室町時代（明応五年 一四九六）

〔拓本の法量〕 縦 二七・二糎／横 三九・〇糎

〔銘文の性格〕 版木

〔書出〕 □□□□□□若見堅持□經典者當□□

迎當如敬佛說是普賢勸發品特恒河沙等

〔書止〕 天龍人非人等一切大會皆歡喜受持佛

語作礼而去

妙法蓮華經卷第八

〔奥書〕 右此本經者傳教大師御筆以令開板之

願主御留守惣政所

坐禪院權大僧都昌源

明応五年〔丙辰〕六月 日

〔年紀〕 明応五年（一四九六）六月

〔所藏〕 栃木県日光市 日光輪王寺

〔備考〕 袖に「日光輪王寺藏 法華經版本」

【二一一】〔外題〕〔高麗国大覚和尚墓誌〕

一〇四—一一 〔頁數〕 一通

〔時代〕 高麗（北宋）時代（建中靖国元年 一一〇二）

〔拓本の法量〕 縦 四七・〇糎／横 六七・〇糎

〔銘文の性格〕 墓誌銘

〔書出〕 高麗国大聖日興王寺故国師 詔諡大覚和尚墓誌銘并序

〔書止〕 智足以發大誠而銘之以此足以流其光明

〔奥書〕 □徳郎秘書郎賜緋臣高世備奉 宣書

□歳〔大宋建中靖国元年／大遼絹統元年〕十一月四日刻

〔年紀〕 建中靖国元年（一一〇二）十一月四日

〔所藏〕

〔備考〕

【二一二】〔外題〕〔廣隆寺博〕

一〇四—一二 〔頁數〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 一九・九糎／横 三五・〇糎

〔銘文の性格〕 博刻文様

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所藏〕 京都市 広隆寺か

〔備考〕

【二一三】〔外題〕〔金蓮寺因島村上氏墓地月山淨円法名碑〕

一〇四—一三 a 〔頁數〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二二・〇糎／横 二四・〇糎

〔銘文の性格〕 石碑銘

〔書出〕 月山淨円

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所藏〕

〔備考〕 一〇四—一三 b と同拓本

奥に付箋二枚①「金蓮寺境内因島村上氏墓地

東雲院慶禮部月山淨円大居士

②「月山淨円」ノ外梵字一文字アリ

〔二二四〕〔外題〕〔金蓮寺因島村上氏墓地月山淨円法名碑〕

一〇四―一三b 〔頁数〕一通

〔時代〕未詳

〔拓本の法量〕縦 二二・〇糎／横 二四・〇糎

〔銘文の性格〕石碑銘

〔書出〕(二二三号に同じ)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕なし

〔所蔵〕

〔備考〕

返却之節 (花押)

(扇板勝美)

〔二二六〕〔外題〕〔僧歴名〕 一〇四―一五 〔頁数〕一通

〔時代〕未詳

〔拓本の法量〕縦 七三・〇糎／横 二六・四糎

〔銘文の性格〕

〔書出〕(梵字)

(梵字) 僧内澄

(梵字) 僧光正

(梵字) 僧去甚

〔書止〕(梵字)

(梵字) 僧廣徳

〔奥書〕

〔年紀〕なし

〔所蔵〕未詳

〔備考〕

〔二二五〕〔外題〕〔高麗版一切経刷本〕 一〇四―一四 〔頁数〕一通

〔時代〕高麗時代 高宗二十三～三十八年(二三三六～五二)

〔拓本の法量〕縦 二七・七糎／横 五九・八糎

〔銘文の性格〕高麗版一切経

〔書出〕已能分別空無我 是故不妄取業報

無有色法及無色 亦無有想無無想

亦無有法及無法 一切諸法無所有

了達業性非是業 亦復不壞諸業性

又亦不壞業果報 宣揚讚歎縁起法

衆生所生無有生 亦無流轉生死中

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕韓国 海印寺

〔所蔵〕(右墨書) 〔高麗版一切経刷本 大正四年海印寺より

〔備考〕 版木将来昨年夏

〔二二七〕〔外題〕〔額カ〕 一〇四―一六 〔頁数〕一通

〔時代〕未詳

〔拓本の法量〕縦 六〇・〇糎／横 二六・四糎

〔銘文の性格〕額カ

〔書出〕^(八九)大龍王

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕なし

〔所蔵〕未詳

〔備考〕虫損あり

【二二八】〔外題〕〔至聖先師像〕 一〇四―一七 〔頁数〕 一通

〔時代〕 清時代（道光年間）

〔拓本の法量〕 縦 一一・八糎／横 六六・五糎

〔銘文の性格〕 先師画像

〔書出〕 道光辛巳仕□□時□藏甲申泰案敬□代頂後守蜀復樞立門中郡

学戊申

〔書止〕 奉拓本渡台□□生 祖敬謹重錫□海外人□瞻仰之江南通州徐宗

幹謹記

〔奥書〕

〔年紀〕 道光辛巳（一八二二）・甲申（一八二四）・戊申（一八四八）

〔所藏〕

〔備考〕

【二二九】〔外題〕〔雉子塚句碑銘（芭蕉塚）〕

一〇四―一八一 〔頁数〕 一通

〔時代〕 江戸時代（安永四年 一七七五）

〔拓本の法量〕 縦 一〇三・四糎／横 六四・五糎

〔銘文の性格〕 句碑

〔書出〕 はせを翁

父母のしきりに

こひし雉子の声

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 安永四年（一七七五）

〔所藏〕 和歌山県（高野山）

〔備考〕

【二二〇】〔外題〕 雉子塚之銘（芭蕉塚）

一〇四―一八一 〔頁数〕 一通

〔時代〕 江戸時代（安永四年 一七七五）

〔拓本の法量〕 縦 一〇三・七糎／横 六三・五糎

〔銘文の性格〕 句碑

〔書出〕 雉子塚之銘

保路く〜と啼は山田の雉子のこゑ父子にやあらむ

母にやとおもひ志たへるいにしへ濃良弁のか乃

〔書止〕 この国に此道しといふ沂風てふ人のまことを

書て留る

〔奥書〕

〔年紀〕 安永四乙未年（一七七五）十月十二日

〔所藏〕 和歌山県（高野山）

〔備考〕

【二三二】〔外題〕〔龍蓋寺額〕 一〇四―一九 〔頁数〕 一通（三紙）

〔時代〕

〔拓本の法量〕 縦 二七・五十二七・五十一三・五 糎／横 三九・

〇×三 糎

〔銘文の性格〕 寺額

〔書出〕 龍蓋寺

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕

〔所藏〕 岡寺（奈良県高市郡明日香村）

〔備考〕 三紙めに「和州岡寺古額 弘法大師筆」とあり。

【二三三】〔外題〕 大和当麻寺金堂須弥壇 一〇四―二〇 〔頁数〕 一通

〔時代〕 奈良時代

〔拓本の法量〕 縦 一一・一糎／横 六八・六糎

〔銘文の性格〕 須弥壇文様（浮彫）

〔書出〕 （須弥壇唐草文浮彫文様）

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 当麻寺（奈良県北葛城郡当麻町）

〔備考〕

〔二三三〕 〔外題〕 〔高句麗城壁石刻〕 一〇四―二

〔員数〕 一通

〔時代〕 高句麗時代（丙戌年 五六六）

〔拓本の法量〕 縦 三三・〇糎／横 六七・五糎

〔銘文の性格〕 城壁石刻

〔書出〕 丙戌田 二月中「漢城下」後了小 四文達

〔書止〕 園自圃 西花園 圃之

〔奥書〕

〔年紀〕 丙戌年（五六六年 平原王八年）

〔所蔵〕 朝鮮半島平安南道

〔備考〕 一九一三年、当時の平壤府鏡濟里大同江畔城壁中より出土

〔二三四〕 〔外題〕 〔仁和寺佛説阿弥陀經 三枚ノ中一〕

〔員数〕 一通

〔時代〕

〔拓本の法量〕 縦 三四・二糎／横 三三・〇糎

〔銘文の性格〕

〔書出〕 佛説

如是我聞□時佛在□□國□樹給□独國

奥大比丘衆千二百五十人俱皆是大阿羅

漢衆所知識長老舍利弗摩訶月權連摩訶

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 仁和寺（京都市）

〔備考〕

〔二三五〕 〔外題〕 〔談山神社多武峯町石 裏面〕

一〇四―三三 〔員数〕 一通

〔時代〕 江戸時代（承応三年 一六五四）

〔拓本の法量〕 縦 一二・四糎／横 五八・五糎

〔銘文の性格〕 町石

〔書出〕 惟夫春環珞七利之位階造立五十二町石倫婆借阿宝一刀一切石積生死炬闔浮胡道積重也同之三世之諸佛所妙法輪之道場和光感應之嘉緒也

〔書止〕 夫祝通入斯道詣 者天真合揚誠心恭誠之圓衆金絹寂光淨利也 圓月豈不儲鳥合 自利利他功德圓 祈所〔石也〕

〔奥書〕

〔年紀〕 〔表面に〕承応三年十月十六日

〔所蔵〕 談山神社（奈良県桜井市）

〔備考〕 ほとんど読めず。奥に「大和談山神社／町石（裏）／（大正）十三・十一・一（花押）」とあり。

〔二二六〕 〔外題〕 〔下野国分寺跡文字瓦〕

一〇四―二四―一―一 〔員数〕 一一通

〔時代〕 奈良時代

〔拓本の法量〕 縦 一三八・一糎／横 六八・五糎

〔銘文の性格〕 文字瓦・瓦当文

A 「国分寺」(隅平瓦)

B 「都可」(平瓦)

C 「国分」(丸瓦)

D、H (軒丸瓦瓦当分)

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕

〔備考〕 下野国都賀郡国分村瑠璃光山国分蜜寺摺仏 付属

一〇四―二四―一〜一まで同じ拓本

【二二七】〔外題〕〔板木〕

〔時代〕 鎌倉時代(元享四年 一三三四)

〔拓本の法量〕 縦 三六・〇糎／横 四九・〇(の半分)糎

〔銘文の性格〕 版木奥書

〔書出〕 元享四年六月三日

〔書止〕 功德持如是 所行不可量 非有亦非無

非界非非界 非有亦非無 非量非無量(左文字)

〔奥書〕

〔年紀〕 元享四年(一三三四) 六月三日

〔所蔵〕

〔備考〕

【二二八】〔外題〕〔板木〕

〔時代〕 南北朝時代(建武元年 一三三四)

〔拓本の法量〕 縦 三六・〇糎／横 四九・〇(の半分)糎

〔銘文の性格〕 版木奥書

〔書出〕 建武元年十二月十一日

〔書止〕 後分下

〔奥書〕

〔年紀〕 建武元年(一三三四) 十二月十一日

〔所蔵〕

〔備考〕 二二七の左半分の裏にあり

【二二九】〔外題〕 法華義疏版木

〔時代〕 鎌倉時代(宝治元年 一二四七)

〔拓本の法量〕 縦 三三・五糎／横 五五糎

〔銘文の性格〕 版木拓本

〔書出〕 上宮太子御草本在法隆寺

校彼本彫此横畢

宝治元年(丁未) 十月日

〔書止〕 普賢勸發品第廿七

此品朋普賢菩薩勸發自行流通故仍為品目也大限第

三流通說中初開為二第一朋他分流通第二朋自分流通令

他分流通已竟此是第二朋

〔奥書〕

〔年紀〕 宝治元年(一二四七) 十月日

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

【二三〇】〔外題〕 正宗寺開山堂正法院額

〔時代〕

〔拓本の法量〕 縦 五八・八糎／横 一三三・二糎

〔銘文の性格〕 寺額

〔書出〕 〔正法院〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所藏〕

〔備考〕 (右下) 〔増井正宗寺〕(朱書)

〔三三二〕 〔外題〕 〔鎌倉長谷寺鐘銘〕 一〇四―二八 〔頁數〕 一通

〔時代〕 鎌倉時代(文永元年 一二六四)

〔拓本の法量〕 縦 六九・〇糎／横 六八・五糎

〔銘文の性格〕 鐘銘

〔書出〕 新長谷寺

推鐘威力 十方施主

潜除不祥 皆除災難

心中所願 決定成就

〔書止〕 壇波羅密具足圓滿

文永元年〔甲子〕七月十五日

当寺住持真光

勸進沙門淨佛

大工物部季重

〔奥書〕

〔年紀〕 文永元年(一二六四)七月十五日

〔所藏〕 長谷寺(神奈川県鎌倉市長谷)

〔備考〕 (左下) 〔昭和七年二月十一日／鎌倉長谷寺〕

〔三三三〕 〔外題〕 〔大品経版本〕 一〇五―二九a 〔頁數〕 一通

〔時代〕 鎌倉時代(文応二年 一二六一)

〔拓本の法量〕 縦 三六・〇糎／横 四九・〇(の半分)糎

〔銘文の性格〕 版木奥書

〔書出〕 後見人可念仏千反

面 文応二年七月 日 幸□之

是故説摩訶衍與空等須菩提如虛空非可(経文左文字)

虛空非闍非明摩訶衍亦如是非闍非明以

非不離以是故説摩訶衍與空等須菩提如

大品経 一帙 七卷 三枚

〔書止〕

〔奥書〕 文応二年(一二六一)七月 日

〔年紀〕

〔所藏〕

〔備考〕

〔三三三〕 〔外題〕 〔版本〕 一〇五―二九b 〔頁數〕 一通

〔時代〕 南北朝時代(貞治二年 一三六三)

〔拓本の法量〕 縦 三六・〇糎／横 四九・〇(の半分)糎

〔銘文の性格〕 版木奥書

〔書出〕 貞治二年十一月十日

清浄故四元所畏清浄何以故若一切智智(経文左文字)

断故善現一切智智故□界清浄眼界

清浄若四元所畏清浄元二元二分元□元

〔書止〕

〔奥書〕 貞治二年(一三六三)十一月十日

〔年紀〕

〔所藏〕

〔備考〕 一三三二号の左半分の裏にあり

〔三三四〕 〔外題〕 〔多胡碑歌碑〕 一〇四―三〇 〔頁數〕 一通

〔時代〕 江戸時代後期

〔拓本の法量〕 縦 一三八・七糎／横 三五・一糎

〔銘文の性格〕 歌碑

〔書出〕 多胡碑をよめる陸奥出羽按察使前中納言有長

玉かくは書物の □かみつ年に
うつもれぬなそいまそ可賀家久

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 群馬県多野郡吉井町池

〔備考〕

【二三五】 〔外題〕 〔古代エジプト碑〕 一〇四―三二

〔時代〕 石碑銘

〔拓本の法量〕 縦 六九・七糎／横 三八・二糎

〔銘文の性格〕 未詳

〔書出〕

〔奥書〕

〔年紀〕 未詳

〔所蔵〕

〔備考〕

【三三六】 〔外題〕 埼玉県慈光寺板碑 一〇四―三二

〔時代〕 南北朝時代（貞治四年 一三六五）

〔拓本の法量〕 縦 一三五・五糎／横 六八・五糎

〔銘文の性格〕 板碑

〔書出〕

〔書止〕 頼愍專信 右志者為先師聖靈三十三廻之 頼承敬白

頼愍淨覚 忌辰并所載先亡後滅之靈等

頼源光阿

貞治四年乙巳三月廿八日弟子法印慈秀 敬
白

榮秀妙空 出離生死証大菩薩乃至法界

教阿光阿 慶救 敬
見蓮道観 平等利益也仍造立如件 白

教阿定賢

〔奥書〕

〔年紀〕 貞治四年（一三六五）乙巳三月廿八日

〔所蔵〕 慈光寺（埼玉県比企郡都幾川村）

〔備考〕

【三三七】 〔外題〕 〔富山藩邸石像覆堂碑文〕 一〇四―三三

〔時代〕 江戸時代（天保四年 一八三三）

〔拓本の法量〕 縦 六七・二糎／横 六七・六糎

〔銘文の性格〕 〔石像覆堂記念碑〕

〔書出〕 江戸城之北富山大守藩邸

之内從昔相傳有彫石之像

不知由来蓋此千載之舊物

……

〔書止〕 君命疊石為基而安置像並
勤佛名且營堂宇以覆護云

天保二年（癸巳）六月日權大僧都法印行智

天保四年癸巳（一八三三）六月日

〔奥書〕

〔年紀〕 天保四年癸巳（一八三三）六月日

〔所蔵〕

〔備考〕 〔左下〕〔磯貝・小谷・齋藤ノ三学兄拓之ノ昭和七年一月二日
（略）〕

〔三三八〕〔外題〕〔大品経板木〕 一〇四―三四 〔頁数〕 一通

〔時代〕 鎌倉時代(正中二年 一三三五)

〔拓本の法量〕 縦 三六・三糎／横 四八・四糎

〔銘文の性格〕 板木

〔書出〕 正仲二年四月十八日

〔書止〕 大品経 三十

〔奥書〕

〔年紀〕 正中二年(一三三五) 四月十八日

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔三三九〕〔外題〕〔大品経版本〕 一〇四―三五 〔頁数〕 一通

〔時代〕 A 鎌倉時代(元応二年 一三三〇)

B 南北朝時代(貞治二年 一三六三)

〔拓本の法量〕 縦 三七・三糎／横 四九・七糎

〔銘文の性格〕 経文

〔書出〕 A 〔大品経 一帙 七卷 三板〕

〔非不離以是(略) 如虚空非可〕 (経文左文字)

〔略) 後見人可念仏千反

面 元応二年七月 日 幸^(元)□之

B 〔清浄若四元所(略)

(略) 以故若一切智智〕 (経文左文字)

□貞治二年十一月四日

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 A 元応二年(一三三〇) 七月 日

B 貞治二年(一三六三) 十一月四日

〔所蔵〕

〔備考〕 A・Bは表裏にあり

〔二四〇〕〔外題〕〔阿蘇西蔵殿寺飾金具〕 一〇四―三六 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二四・七糎／横 一二・三糎

〔銘文の性格〕 飾金具文様

〔書出〕 (四鈷杵文様・転法輪文様)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 西蔵殿寺(熊本県阿蘇郡阿蘇町)

〔備考〕

〔二四一〕〔外題〕〔多賀城碑〕 一〇四―三七 〔頁数〕 一通

〔時代〕 奈良時代(天平宝字六年 七六二)

〔拓本の法量〕 縦 一七九・二糎／横 九七・〇糎

〔銘文の性格〕 石碑

〔書出〕 多賀城 去京一千五百里

去蝦夷国界一百廿里

西 去常陸国界四百十二里

去下野国界二百七十四里

去麻鞞国界三千里

〔書止〕 (略) 將軍藤原惠美朝臣禰修造也

天平宝字六年十二月一日

〔備考〕 二四四号に続く

〔二四六〕 〔外題〕 〔新羅聖徳王鐘銘〕 一〇四―四〇―三 〔頁数〕 一通

〔時代〕 新羅時代（大曆六年 七七二）

〔拓本の法量〕 縦 八九・〇糎／横 七八・五糎

〔銘文の性格〕 鐘銘

〔書出〕 二四五号参照

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 大曆六年（七七二）十二月十四日

〔所蔵〕 韓国慶州（国立慶州博物館）

〔備考〕 二四五号と同拓本

〔二四七〕 〔外題〕 〔新羅聖徳王鐘文様〕 一〇四―四一―一 〔頁数〕 一通

〔時代〕 新羅時代（大曆六年 七七二）

〔拓本の法量〕 縦 一一八・五糎／横 七九・〇糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 （飛天像）

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 （大曆六年（七七二）十二月十四日）（二四五号参照）

〔所蔵〕 韓国慶州（国立慶州博物館）

〔備考〕

〔二四八〕 〔外題〕 〔新羅聖徳王鐘文様〕 一〇四―四一―二 〔頁数〕 一通

〔時代〕 新羅時代（大曆六年 七七二）

〔拓本の法量〕 縦 一一八・五糎／横 七九・〇糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 （飛天像）

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 （大曆六年（七七二）十二月十四日）（二四五号参照）

〔所蔵〕 韓国慶州（国立慶州博物館）

〔備考〕

〔拓本の法量〕 縦 一一八・五糎／横 七九・〇糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 （飛天像）

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 （大曆六年（七七二）十二月十四日）（二四五号参照）

〔所蔵〕 韓国慶州（国立慶州博物館）

〔備考〕 二四七号と同拓本

〔二四九〕 〔外題〕 〔新羅聖徳王鐘文様〕 一〇四―四一―三 〔頁数〕 一通

〔時代〕 新羅時代（大曆六年 七七二）

〔拓本の法量〕 縦 七九・五糎／横 三五・〇糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 （中帯唐草文様 左端に撞座）

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 （大曆六年（七七二）十二月十四日）（二四五号参照）

〔所蔵〕 韓国慶州（国立慶州博物館）

〔備考〕

〔二五〇〕 〔外題〕 〔新羅聖徳王鐘文様〕 一〇四―四一―四 〔頁数〕 一通

〔時代〕 新羅時代（大曆六年 七七二）

〔拓本の法量〕 縦 七九・〇糎／横 三五・五糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 （中帯唐草文様 左端に撞座）

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 （大曆六年（七七二）十二月十四日）（二四五号参照）

〔所蔵〕 韓国慶州（国立慶州博物館）

〔備考〕

〔奥書〕

〔年紀〕 (大曆六年〔七七二〕十二月十四日) (二四五号参照)

〔所蔵〕 韓国慶州(国立慶州博物館)

〔備考〕 二四九号と同拓本

【二五二】〔外題〕〔新羅聖德王鐘文様〕

一〇四―四一―五 [頁数] 一通

〔時代〕 新羅時代(大曆六年 七七二)

〔拓本の法量〕 縦 四三・〇糎／横 二四・〇糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 (撞座)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 (大曆六年〔七七二〕十二月十四日) (二四五号参照)

〔所蔵〕 韓国慶州(国立慶州博物館)

〔備考〕

【二五二】〔外題〕〔新羅聖德王鐘文様〕

一〇四―四一―六 [頁数] 一通

〔時代〕 新羅時代(大曆六年 七七二)

〔拓本の法量〕 縦 三五・五糎／横 二四・〇糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 (撞座)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 (大曆六年〔七七二〕十二月十四日) (二四五号参照)

〔所蔵〕 韓国慶州(国立慶州博物館)

〔備考〕

【二五三】〔外題〕〔新羅聖德王鐘文様〕

一〇四―四一―七 [頁数] 一通

〔時代〕 新羅時代(大曆六年 七七二)

〔拓本の法量〕 縦 二九・六糎／横 七九・四糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 (中带唐草文様)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 (大曆六年〔七七二〕十二月十四日) (二四五号参照)

〔所蔵〕 韓国慶州(国立慶州博物館)

〔備考〕

【二五四】〔外題〕〔新羅聖德王鐘文様〕

一〇四―四一―八 [頁数] 一通

〔時代〕 新羅時代(大曆六年 七七二)

〔拓本の法量〕 縦 二九・六糎／横 七九・四糎

〔銘文の性格〕 鐘文様

〔書出〕 (中带唐草文様)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 (大曆六年〔七七二〕十二月十四日) (二四五号参照)

〔所蔵〕 韓国慶州(国立慶州博物館)

〔備考〕 二五三号と同拓本

【二五五】〔外題〕〔慶州栢栗寺石幢〕

一〇四―四一―一 [頁数] 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・〇糎／横 三三・六糎

〔銘文の性格〕 石幢文様

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕 (第1面)

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年〔八一八〕 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 二五五号、二六五号は同じ石幢からの採拓

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年〔八一八〕 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 二五六号と同拓本 (第2面)

〔二五八〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四―四二―二 a 〔頁數〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・〇糎／横 三三・八糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 呼奈何天下□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□食□□□□□□□□□□□□□□□□□□

間盞□□□君即□□昔日小兒非□所能獸敬日□□□

□□□可□□乎□□□□□□□□□□□□□□□□□□

天下佛教流行□動之類□□□國豊民安可通三韓□□四

海獸日□列臣國固聞秘計□□□□□北西之兵恒以四□□□

□□子聞是已□□□□□□□□□□□□□□□□□□

〔奥書〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年〔八一八〕 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 第3面

〔二五九〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四―四二―三 b 〔頁數〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・〇糎／横 三三・九糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 (二五八号と同じ)

〔書止〕

〔二五六〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四―四二―二 a 〔頁數〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・〇糎／横 三三・五糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕 (第2面)

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年〔八一八〕 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕

〔二五七〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四―四二―二 b 〔頁數〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・〇糎／横 三三・五糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 一〇四―四二―二 a と同じ

〔書止〕

〔奥書〕 (第2面)

〔奥書〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年(八一八) 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 二五八号と同拓本

〔二六〇〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四一四二一四 a 〔頁数〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・〇糎／横 三三・五糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 君臣語諍而故謬□□吾頸臣民靡懈□敢違命君曰雖有此□

豈敢□於無□之命獸曰天下之□無□於□佛子之□無□

死□□雖死佛法流行□此小□□君□小忘大可□□□□

則惺然歎曰□是布衣□懷□□□□在民心□□王□□□

第是□若如是者可謂大士乎王之□□□□必然□□衣□□

於路寢佩劍之士備於四方□□□□臣□□則□北面而□王乃

問曰臣等於吾以信佛法欲建塔□故□蔡賊諸臣□拜□□□

〔與書〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年(八一八) 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕

〔二六一〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四一四二一四 b 〔頁数〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 糎／横 糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 (二六〇号と同じ)

〔書止〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年(八一八) 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 二六〇号と同拓本

〔二六一〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四一四二一五 a 〔頁数〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・三糎／横 三三・七糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 日臣圍無圍圍圍□若圍□□□□盟王召□□□□

圍圍王□圍司□圍獸子□□□□圍圍北面□□□□

□□□□圍長圍命彼時圍甲白乳一丈□□□□

地圍圍圍□□動殖不□□□□^{邊先}□□^物足□□□□

屍北圍□□西山彼法興王□□□□十五乙未年□□□□

水圍□^卷至丙午□□□□□□□□□□便旋至□□□□

□□中□□□□□□□□□□□□□□但□□^卷人家□□□□

〔與書〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年(八一八) 戊戌)

〔所藏〕 栢栗寺 (慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 第5面。

〔二六三〕 〔外題〕 (慶州栢栗寺石幢)

一〇四一四二一五 b 〔頁数〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇七・六糎／横 三三・七糎

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 (二六二号と同じ)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年〔八一八〕 戊戌)

〔所蔵〕 栢栗寺(慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 第5面。二六二号と同拓本

〔二六四〕〔外題〕〔慶州栢栗寺石幢〕

一〇四―四二―六 a 〔頁数〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇八・〇糶／横 三三・六糶

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 □□□□如夢□魂□對日□□□□王白建□□□□

□□□□□□□□王□□□□□□□□魂聞之□□□□

□□□□詛日子写余□□□□□□□□乎□□□□□□

魂日□教爲□□□□□□生□□□□到□□□□□□

〔書止〕 与其□命□比□魏聞□法□歎日□聞□□□□□□□□

介□□□□□□□□國□□□□法主釋□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

〔奥書〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年〔八一八〕 戊戌)

〔所蔵〕 栢栗寺(慶州市川北面龍江里)

〔備考〕

〔二六五〕〔外題〕〔慶州栢栗寺石幢〕

一〇四―四二―六 b 〔頁数〕 一通

〔時代〕 統一新羅時代

〔拓本の法量〕 縦 一〇七・九糶／横 三三・六糶

〔銘文の性格〕 石幢銘

〔書出〕 (二六四号と同じ)

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 (推定新羅憲德王十年〔八一八〕 戊戌)

〔所蔵〕 栢栗寺(慶州市川北面龍江里)

〔備考〕 二六四号と同拓本

〔二六六〕〔外題〕〔經典版本〕 一〇四―四三 〔頁数〕 一通

〔時代〕 南北朝時代(貞治六年 一三三七)

〔拓本の法量〕 縦 八九・五糶／横 三三・二糶

〔銘文の性格〕 版木

〔書出〕 「興福寺 貞治六年十一月廿日」

「四正祈神足五根五力七寺覺支八正道

法彼不触佞佛言訕不服主上金住不能往」(釋文左文字)

〔書止〕 「取有生老死愁歎苦憂拙元所有以內空故

舍利子元賜無所有行職名色六処觸受愛」(釋文左文字)

「初百内 五峽 一卷 七

春

〔奥書〕

〔年紀〕 貞治六(一三六七) 未十一月廿日

〔所蔵〕 興福寺(奈良市)

〔備考〕

〔二六七〕〔外題〕〔勝鬘教版本〕 一〇四―四四 〔頁数〕 一通

〔時代〕 鎌倉時代(文永三年 一二六六)

〔拓本の法量〕 縦 三三・二糶／横 六八・九糶
〔銘文の性格〕 版木

〔書出〕 文永三年〔丙寅〕四月日彫之
菩提寺比丘證園

〔書止〕

〔奥書〕 勝覺經（花押）

〔年紀〕 文永三年（一二六六）〔丙寅〕四月日

〔所藏〕

〔備考〕

〔二六八〕 〔外題〕 〔成唯識論述記版本〕 一〇四―四五 〔頁數〕 一通

〔時代〕 鎌倉時代（建久六年 一一九五）

〔拓本の法量〕 縦 三三・一糶／横 六八・六糶

〔銘文の性格〕 版木

〔書出〕 述記九本一卷摸板^{下七枚}□□□□講本

承士之切所雕進也矣

建久六年〔乙卯〕八月廿九日 僧堯盛

〔書止〕

〔奥書〕 成唯識論述記卷第九^本（板経尾題）（左文字）

〔年紀〕 建久六年（一一九五）〔乙卯〕八月廿九日

〔所藏〕 興福寺（奈良市）

〔備考〕 春日版

〔二六九〕 〔外題〕 〔成唯識論述記版本刷本〕

一〇四―番外一 〔頁數〕 一通

〔時代〕

〔拓本の法量〕 縦 二九・〇糶／横 二九・〇糶

〔銘文の性格〕 版木

〔書出〕 述記九本一卷摸板^{下七枚}□□□□邦□講本^本

兼士之功所雕進也矣

建久六年〔乙卯〕八月廿九日 □堯□

〔書止〕 〔成唯識論述記卷第九（左文字）〕

□□餘對法非十二別抄有異應取解之

□繁父今此論中略示□要然此等並取諸經論盡□

蓋乃至十二□□（略）（左文字）（半分欠）

〔奥書〕 田村鉄之助製版（活字印刷）

〔年紀〕 建久六年（一一九五）〔乙卯〕八月廿九日

〔所藏〕 興福寺（奈良市）

〔備考〕 刷り見本か 二六八号に版木拓本あり

〔二七〇〕 〔外題〕 〔大般若波羅蜜多經版本刷本〕

一〇四―番外二 〔頁數〕 一通

〔時代〕

〔拓本の法量〕 縦 二七・〇糶／横 六〇・七糶

〔銘文の性格〕 版木

〔書出〕 □^天般若波羅蜜多經卷第二

三藏法師玄奘奉 詔譯

初分縁起品第一之一

如□及諸菩薩摩訶薩衆□庶□□

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所藏〕

〔備考〕 版木の刷本

〔二七一〕 〔外題〕 〔維摩詰經卷下版木〕 一〇四―四六

〔時代〕 鎌倉時代（文永四年 一二六七）

〔頁數〕 一通

【二七五】〔外題〕〔板碑〕 一〇四―五〇 〔頁数〕 一通

〔時代〕

〔拓本の法量〕 縦 二二九・七糎／横 六七・五糎

〔銘文の性格〕 板碑

〔書出〕 □□右志者□四□山三□□

(浄瓶) 四

男女二子為一□□

□□四佛現世□□□圓坊

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕

〔備考〕

【二七六】〔外題〕 阿波国石井村綿打橋橋石

一〇四―五一 〔頁数〕 一通

〔時代〕 室町時代(正平二十年 一三六五)

〔拓本の法量〕 縦 五七・八糎／横 一七・五糎

〔銘文の性格〕 橋石銘

〔書出〕 正平廿年壬二

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 正平廿年(一三六五) 壬二

〔所蔵〕

〔備考〕

【二七七】〔外題〕〔寛永十一年銘碑〕 一〇四―五二 〔頁数〕 一通

〔時代〕 江戸時代(寛永十一年 一六三四)

〔拓本の法量〕 縦 一二八・〇糎／横 六七・六糎

〔銘文の性格〕 仏教関係碑

〔書出〕 □□□□□□□□□□□□□□□□□□

(梵字) □□□□□□□□□□□□□□□□□□
白 敬

寛永十一年拾月十二

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 寛永十一年(一六三四) 拾月十二

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

【二七八】〔外題〕〔弘安六年銘板碑〕 一〇四―五三 〔頁数〕 一通

〔時代〕 鎌倉時代(弘安六年 二二八三)

〔拓本の法量〕 縦 六五・四糎／横 六七・八糎

〔銘文の性格〕 板碑か

〔書出〕 □□□□□□□□□□□□□□□□□□

三〇〇奉

□□□白

〔書止〕

弘安未十一

勸進 寺

〔奥書〕

〔年紀〕 弘安未(六)年(二二八三) 十一

〔所蔵〕

〔備考〕 裏右下墨書「大正十四年歟／□装河北新報」とあり(黒板勝美氏筆)

〔二七九〕〔外題〕〔釋迦牟尼造像銘〕 一〇四―五四 〔員數〕一通

〔時代〕 北魏時代（景明四年 五〇三）

〔拓本の法量〕 縦 三五糶／横 一二三糶

〔銘文の性格〕 造像銘（釋迦牟尼像一區）

〔書出〕 景明四年十月
七日廣川王祖

母大妃侯自以

流曆弥劫於法

（略）

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 景明四年（五〇三）十月七日

〔所蔵〕

〔備考〕

〔二八〇〕〔外題〕〔北魏造像銘〕 一〇四―五五 〔員數〕一通

〔時代〕 北魏時代（景明三年 五〇二）

〔拓本の法量〕 縦 五二・五糶／横 三六・二糶

〔銘文の性格〕 造像銘

〔書出〕 景明三年五月廿日邑主高樹維那
解佰都世二人等造石像一區願元世

父母及現世眷属来身神騰九空□

〔書止〕 来英芝蓋定王張定光高南征高曇

仔高副高洛珎楊洪伯高思順鄧通

生高珎保孫山起薛文達高天生

〔奥書〕

〔年紀〕 景明三年（五〇二）五月廿日

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔二八一〕〔外題〕〔某石碑〕 一〇四―五七 〔員數〕一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 三三・〇糶／横 五〇・五糶

〔銘文の性格〕 石碑

〔書出〕 □□昭而著其

□□固可厭惡伏

洪運仁

〔書止〕 □□猶如新成因立

□□哉好主之大德

可從而知區區愚

同然

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔二八二〕〔外題〕〔備前守藤原秀英銘〕 一〇四―五八 〔員數〕一通

〔時代〕 江戸時代カ

〔拓本の法量〕 縦 九八・九糶／横 二九・三糶

〔銘文の性格〕

〔書出〕 園田 備前守從五位下藤原秀英

監事

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕
〔備考〕 「後ニ抑々可取調之事」

〔二八三〕 〔外題〕 〔某拓本〕 一〇四―五九 〔頁数〕 二

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 A 縦一七五・〇糎／横三一・七糎

B 縦一五〇・一糎／横二四・二糎

〔銘文の性格〕 未詳

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕 (裏左下墨書) 「日光旅行の際のモノ」

〔二八四〕 〔外題〕 〔北魏造像銘〕 一〇四―六〇 〔頁数〕 一通

〔時代〕 北魏時代(神龜三年 五二〇)

〔拓本の法量〕 縦 五三・〇糎／横 三五・九糎

〔銘文の性格〕 造像銘

〔書出〕 大魏神龜三年三月廿

日比丘尼慈香慧政造

一區記々夫容覺引虚非

(略)

〔書止〕 (略)

逮□□含閻法界□□

澤描石成真□□

及三從敢同斯播

〔奥書〕

〔年紀〕 神龜三年(五二〇)三月廿日

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔二八五〕 〔外題〕 〔鏡・櫛・硯拓本〕 一〇四―六一―一 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二八・〇糎／横 四一・〇糎

〔銘文の性格〕 鏡背鏡面拓本

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕 二八五号と二九〇号は一連の拓本

〔二八六〕 〔外題〕 〔鏡・櫛・硯拓本〕 一〇四―六一―二 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二八・〇糎／横 四一・〇糎

〔銘文の性格〕 鏡背鏡面拓本

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔二八七〕 〔外題〕 〔鏡・櫛・硯拓本〕 一〇四―六一―三 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二八・〇糎／横 四一・〇糎
〔銘文の性格〕 鏡背鏡面・櫛拓本

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔二八八〕 〔外題〕 〔鏡・櫛・硯拓本〕 一〇四―六一―四 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二八・〇糎／横 四一・〇糎

〔銘文の性格〕 櫛

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔二八九〕 〔外題〕 〔鏡・櫛・硯拓本〕 一〇四―六一―五 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二八・〇糎／横 四一・〇糎

〔銘文の性格〕 櫛拓本

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳
〔備考〕

〔二九〇〕 〔外題〕 〔鏡・櫛・硯拓本〕 一〇四―六一―六 〔頁数〕 一通

〔時代〕 未詳

〔拓本の法量〕 縦 二八・〇糎／横 四一・〇糎

〔銘文の性格〕 硯

〔書出〕

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 未詳

〔備考〕

〔二九一〕 〔外題〕 〔筑前天拝山背公衣掛岩詩碑〕 一〇四―六一―二 〔頁数〕 一通

〔時代〕 南北朝時代（正平二十年 一三六五）

〔拓本の法量〕 縦 三四・一糎／横 四五・六糎

〔銘文の性格〕 石碑銘

〔書出〕 天判峯頭仰波蒼

願心成満放威兄

御衣薫石變為□

五百年來流水香

〔書止〕

〔略〕

正平二十年（乙巳）二月廿五日

願主権大僧都信□□□

〔奥書〕

〔年紀〕 正平二十年（一三六五）〔乙巳〕二月廿五日

〔所蔵〕 武蔵寺（福岡県太宰府市）

〔備考〕

〔二九二〕 〔外題〕 〔室生寺板碑銘〕 一〇四—六三 〔頁数〕 一通

〔時代〕 不明

〔拓本の法量〕 縦 九二・二糎／横 二三・四糎

〔銘文の性格〕 板碑

〔書出〕 〔梵字〕 大界外相

〔書止〕

〔奥書〕

〔年紀〕 なし

〔所蔵〕 室生寺（奈良県宇陀郡室生村）

〔備考〕 「大和室生寺／大正十三・十一・二拓」

〔付記〕

目録の凡例は、本誌創刊号「東京大学日本史学研究室架蔵拓本目録」に准じた。

なお、今回の調査への参加者・協力者は、研究室教官の佐藤信・鐘江広之（現弘前大学）、研修教員の倉本一宏（現駒沢女子大学）、大学院生の朴昔順・三上喜孝（現学術振興会特別研究員）・須原祥二（現学術振興会特別研究員）・飯田剛彦・野尻忠・馬場基・新井重行・南部みどり・宗流範・有富純也・前田慶一・稲田奈津子、研究室副手の伊藤（関）陽子・堀井典子である。